

令和元年度第2回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会 会議録

運営協議会を次のとおり開催しました。

(敬称略)

協議会名称	鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会	
開催日時	令和2年1月28日(火) 19時30分～20時40分	
開催場所	鎌倉市役所 第3分庁舎 1階 講堂	
委員 出席者	特定非営利活動法人 小児臨床研究支援ネットワーク 理事長	名取 道也
	特定非営利活動法人 医療ガバナンス研究所 理事長	上 昌広
	ファミリーサポートセンター理事	高橋 佳子
	弁護士	石川 裕一
医師会・ 市出席者	鎌倉市医師会 会長	山口 泰
	鎌倉市医師会 副会長	西尾 佳晃
	鎌倉市医師会 理事(産科診療所担当)	蔵並 貴子
	産婦人科医会会長代理・顧問	黒川 民男
	産科診療所 所長	高山 照雄
	鎌倉市健康福祉部次長	田中 良一
次回開催 予定日	令和2年7月下旬	
問合せ先	鎌倉市医師会 事務局 電話番号 0467-22-1245	
会議記録	以下のとおり	

事務局 本日はお忙しいところお集まりいただきまして、ありがとうございます。

ただいまから平成元年度第2回鎌倉市医師会立産科診療所運営協議会を開催させていただきます。

出席委員は4名で、過半数を超えておりますので、本協議会設置要綱第6条第2項の規定により、会議は成立しておりますことを御報告いたします。なお、田坂委員は所用で欠席しております。

当協議会委員の任期は2年で、今回の協議会はその節目となっておりますので、会長が選任されるまでの間、事務局で会議を進行させていただきます。

委員の皆様は、令和2年1月27日をもって任期満了となっております。

過日、委員の皆様は委員継続の可否についてお伺いさせていただきましたが、増本委員から、諸般の事情により委員を辞したい旨のお話がありました。このことから、新たに、石川裕一様に、委員をお願いすることといたしましたので、御紹介させていただきます。

石川委員 石川裕一と申します。大船で開業をしております弁護士でございます。弁護士に登録しましたのが2002年になりますので、今年で18年目になるかと思っております。よろしくお願ひいたします。

弁護士としての委員ですので、事故が起きないようにするとか、あるいは働いている方の待遇の問題、働く方の意欲とか、弁護士が日常で取り扱っている業務に関する観点などを含めて御意見を申し上げられればいいかなと思っておりますので、よろしくお願ひいたします。

事務局 ありがとうございます。委員の皆様への委嘱につきましては、皆様の席に委嘱状をお配りする形で行わせていただいております。

次に、会長・副会長の選出に入りたいと思いますが、大変僭越ではございますが、事務局といたしましては、引き続き会長に名取委員、副会長に上委員をと考えております。委員の皆様いかがでしょうか。

(賛成の声あり)

ありがとうございます。それでは、会長を名取委員に、副会長を上委員にお願いいたします。会長が選出されましたので、この後の進行を名取会長にお譲りしたいと思いますので、よろしくお願ひいたします。

会長 令和元年度第2回産科診療所運営協議会を開催させていただきます。

最初に、前回の議事録が事前に配布されておりますが、特段、御意見はいただいていないと思いますので、よろしければ、これで前回の議事録については、本協議会として承認をさせていただきたいと思ひます。

事務局 ありがとうございます。議事録につきましては、鎌倉市医師会のホームページに掲載させていただきますのでよろしくお願ひいたします。

会長 それでは、本日の議題、最初に、令和元年度の運営状況についての御説明からお願いしたいと思います。

事務局 それでは、議題(1)令和元年度の運営状況について御説明いたします。資料1をご覧ください。分娩件数でございます。今年度12月末までの件数が

103件、前年に比べますと13件、割合でいきますと11.2%の減少となっています。住所別内訳は、市内が60人、全体の58.3%、里帰り出産が23人、全体の22.3%、市外の方が20人、全体の19.4%でございます。割合から見ますと市内の方がやや減少し、里帰りの方と市外の方の割合がその分増えております。月平均にしますと11分娩となっております。前年度は13件ございました。帝王切開は14件、月平均にしますと1.5件でございます。母親の出産時の年齢については、開設以降の統計になっておりますが、31歳から35歳が一番多くて41.7%を占めております。

鎌倉市 引き続き鎌倉市の出産状況等について説明いたします。資料2をご覧ください。平成31年度の4月から12月までの出生連絡票の提出件数と母子健康手帳の交付件数です。出生連絡票は、窓口や郵送等により市に届け出があった月で集計しているため、実際の生まれ月とは若干の差が生じていますが、施設及び地域ごとの分娩件数等の出産動向は概ね把握できるものと考えております。まず、母子健康手帳の交付数は741件で前年度から3件減少しております。鎌倉市全体での出生件数は716件で前年度から29件減少しております。

資料2の3、分娩施設及び地域別内訳をご覧ください。鎌倉市民が出産した場所の状況ですが、市内4施設では716件中417件で、前年度の745件中417件と比較しますと、件数は同じですが、割合としては0.6%減少しております。市内4施設の内訳を見ますとティアラかまくらは63件で8.8%、湘南鎌倉総合病院は102件で14.2%、矢内原医院は162件で22.6%、湘南鎌倉バースクリニックは90件で12.6%となっております。前年度同時期との比較では、ティアラかまくらは16%の減少、湘南鎌倉総合病院は10.5%の減少、矢内原医院は15.7%の増加、湘南鎌倉バースクリニックは2.2%の減少となっております。

資料2の4、鎌倉市内分娩施設別内訳をご覧ください。市内4施設の鎌倉市民以外を含めた分娩件数を記載しております。ティアラかまくらは、前年度同時期の116件から13件減少の103件、湘南鎌倉総合病院は、前年度同時期の354件から8件減少の346件、矢内原医院は、前年度同時期の344件から33件増加の377件、湘南鎌倉バースクリニックは、前年度同時期の205件から3

件減少の202件となっております。鎌倉市民の市内での出産割合50%を超えておりますが、出生数全体やティアラかまぐららの分娩件数の減少が続いている状態です。

事務局 続きまして、資料3をご覧ください。分娩予約件数の表になっております。予約につきましては、月の前半と後半に区分して受けております。確定数の欄は、当初の予約申し込みから転院、キャンセルを減じた数となっております。今年度残り3カ月の予約件数は、1月1日現在で26件となっております。

資料4をご覧ください。今年度残り3カ月の予約件数は、先ほども申し上げましたように、1月1日現在で26件となっております。全て予定日どおり分娩に至ることになれば、今年度の分娩件数は129件を見込むことができます。ただし、通常1割程度の転院、キャンセルがありますので、それを見込みますと126件と推測することができます。なお、令和2年度4月から7月の分娩予約状況につきましては、前年度の同時期と比較しますと合計で19.5%増えております。

資料5をご覧ください。外来診療件数等でございます。外来診療件数は、3,580件で前年度同期と比較して46件、1.3%の減少となっております。その内訳は妊婦健診が2,065件、全体の57.7%、前年度と比べますと16.1%の減少、1カ月健診は114件で全体の3.2%、前年度に比べますと18%の減少。2週間健診が117件で全体の3.3%。これは前年とほぼ同じでございます。母乳外来が212件で全体の5.9%、前年度に比べますと23.9%の増。がん健診を含む婦人科が1,091件で全体の30.5%、前年度に比べまして47.2%の増。予防接種が122件で全体の3.4%、前年度に比べまして3.4%の増となっております。入院人数は190人でベッドの利用率は33.8%でした。鎌倉市が30年度から始めました産後ケア事業に係る入院が増えております。

資料6をご覧ください。鎌倉市の産後ケア事業の業務実施状況でございます。鎌倉市の産後ケアでの入院は、ショートステイが延べ12人で68日間。デイサービスが3人で4日間。アウトリーチが2人で2回となっております。昨年の同時期と比べますと約2倍となっており、昨年度1年間の件数を既に上回っております。

資料7、各種教室の開催状況等についてです。妊娠初期の段階と後期に行っております両親教室は、合計で18回、201人の参加を得ました。市からの受託事業、はじめまして赤ちゃん広場は9回行い、60組の参加を得ました。また、市の新生児等訪問につきましては67件実施いたしました。その他の教室等につきましては、記載されているとおりでございます。

会長 ありがとうございます。ここまでのところで何か御質問、御意見等がございましたらお願いしたいと思います。

委員 資料6に産後ケアでアウトリーチという項目がありますが、アウトリーチというのは、具体的にどのようなものでどういうことをきっかけに行われるものなのか、差し支えない範囲で教えていただけませんかでしょうか。

事務局 産後ケアという部分で、自宅に助産師さんが訪問して相談に乗るところがアウトリーチとなっております。ショートステイは言葉どおりティアラに宿泊する。デイサービスというのは、ティアラに宿泊ではなく、来ていただいてケアをしていただくという形になっております。

委員 アウトリーチが実施されるきっかけと言いますか、ショートステイとかデイサービスの利用が困難な方に事情をお伺いしてアウトリーチをすることになるという、そういう趣旨でしょうか。

事務局 一番は、母親が産後鬱とかそういう状況に陥ったときに、家庭から離れたほうがいいということでしたら宿泊という形になるのですが、そこまでいかない段階だったら訪問で足りるということで、アウトリーチという選択をしています。

委員 今回の資料6で、ショートステイやデイサービスのほうが数としては多いことになっていますが、原則形態としてはアウトリーチだという、そういう趣旨でしょうか。

事務局 サービスとしては三つあるので、どれがいいかというのは、使う方の申請によって、これを使いたいという申請があればそれでやるような形です。

会長 ほかに御意見ございますか。

鎌倉市全体の分娩数が4～5%ぐらいの減少という数字の中で、ティアラの減少の程度というのは、この数年で大分落ちついてきて減少率の低下というのはあるかと思うのですが、まだ一番底まではいってないようなところに

なる。一方で、この2年ぐらいこの協議会でも議論させていただいた、どんなことをやっていったら鎌倉の市民の方のお役に立てるのかといったようなことをプランの中で少しずつ実行されてきた。例えば、先ほどの議論の外来というかステイのことですね。先ほどのお話ですと、利用者が大分増えたというお話がございました。大変いい結果、トライしてきたことが少し当たってきているのではないかと、大変喜ばしいことだと思います。

前回は議論があったかもしれませんが、産後ケア入院というのは、ある意味で児童虐待とかそういうこととも関連するような側面があるかと思えます。市の管轄という観点からは、児童虐待絡みとか、別のセクションみたいなお話ですよ。管轄とか、いろいろな問題があるかと思いますが、実際の虐待の防止という観点で、少しでもこの産後ケアがお役に立てていただけるのであれば、喜ばしいことではないかなと考えています。

それでは、続きまして、(2)の事業収支見込みについて御説明をいただきたいと思えます。

事務局 資料8をご覧ください。令和元年度の収支見込みについてです。今年度の分娩件数は当初予算で見込んでおりました140件を15件下回るが見込まれることから、その分娩件数に大きく左右されます自費外来収入、自費入院収入は、当初予算額に対して、それぞれ505万3,346円、609万2,550円の減少を見込みました。婦人科の受診が大幅に増えていることから、他の診療収入は増加が見込まれます。しかしながら、診療収益全体では、当初予算額に対しまして787万4,000円の減少が見込まれております。

支出につきましては、事業管理費が212万1,000円予算額を上回ることが見込まれます。人件費については、常勤職員の削減によりまして、当初予算額に対して431万8,000円下回る見込みでございます。

結果、収支の差額は313万3,000円の不足が見込まれることになり、市からの運営費補助金の追加交付をお願いすることとなります。

会長 ありがとうございます。この収支見込みについて何か御意見等がございますか。

委員 資料8の下半期見込み額に退職給付費用400万円が計上されているが、これは、現実に人が退職されたという趣旨と捉えてよろしいでしょうか。

事務局 これは年度末時点におきまして、職員の退職金が充足できるように、その
時点で計算した前年度末の積立引当金にプラスする400万円です。

委員 現実に退職されたということではなくて、積立ということですね。

事務局 はい。

会長 他に御意見はございますか。

人件費の減少というお話がございましたが、平成30年度と比べて令和元
年度は、運営に携わる職員の方の人数が減ったのでしょうか。

事務局 人数的には、常勤の職員を減らしております。具体的には、次の資料に
現体制がありますが、今年度は、昨年度と比べますと常勤助産師を3名減ら
しております。

会長 わかりました。他に御意見、御質問はございますか。

委員 毎度同じですけど、厳しいですね。130件の分娩で1億3,000万補助金入れ
ているので、1件当たり100万円ですよ。こういうのはどういうふうに、
いま議論されているのですか。ティアラかまくらでも市役所でも、議会とか
ではどんな感じなのですか。

事務局 ここ最近の議会では、そういう話が出てはいませんが、この前監査があっ
たときには、監査委員から、委員おっしゃるとおり、どうなのだろうという
お話はありました。

委員 幾ら補助金を入れるかは、鎌倉市の市民が決めることなのでしょうが、少
し多いですよ。

会長 よろしいでしょうか。先ほど来のお話にも絡むと思いますので、(3)の
今後の運営体制についての御説明をお願いいたします。

事務局 資料9をご覧ください。今後の運営体制と現在の体制について説明をい
たします。令和2年1月1日現在の運営体制は、所長が常勤医師の高山で、
就任してから7年8カ月になります。医師の外来診療につきましては、高山
所長の他に非常勤医師5名が担当をしております。内訳は、産婦人科医師と
して東京慈恵会医大の矢内原臨医師、川畑絢子医師、山村倫啓医師、東京女
子医大の佐藤陽一医師。1カ月健診を行う新生児科の医師については、横浜
市大の岩間一浩医師が担当です。病棟は外来に当たっていない高山所長と
非常勤の産科医師とで交代で担当をしております。当直は非常勤の医師が

担当しております。帝王切開に際しての麻酔科の医師は、東京麻酔グループの吉野医師他21名の医師の中から派遣されております。

看護スタッフは、分娩取扱数がピークだった23年度は師長1名、常勤助産師9名、常勤看護師3名、非常勤助産師6名の体制でしたが、30年度末には常勤助産師10名、常勤看護師1名、非常勤助産師3名、非常勤看護師1名となり、現在では、常勤助産師7名、常勤看護師1名、非常勤助産師5名の体制で運営をしております。30年度に比べまして常勤助産師3名を減らしております。外来については、非常勤の助産師が2名、助産師外来、母乳外来は常勤あるいは非常勤の助産師が担当し、病棟は助産師看護師2名で対応しております。夜勤は、助産師あるいは看護師、2名で担当しております。新生児訪問については、常勤・非常勤の助産師が交代で週1回行っております。両親学級は、常勤、非常勤の助産師、看護師が月1日、その日に2回行っております。はじめまして赤ちゃん広場については、外部の講師にお願いし、月1回ティアラのロビーを使って行っております。その他の各種教室につきましては、スリング教室、マタニティヨガ以外は外部の講師に依頼をしております。

事務員は、事務長を含め常勤3名でございます。

今後もこの体制を維持し、経費の抑制に努めてまいりたいと思っております。また、収入の確保についても職員の知恵を集めて努力してまいります。

会長 ありがとうございます。事業収支、運営体制に関しまして、何か。

委員 前回からぎりぎりのところでされていて、安全性のお話も委員から出ているのですが、今、産後ケアの部分ですとか、婦人科の診療も増えていく中で、あまり病院の体制としてイメージが付きづらいのですが、忙しさというか、例えば産後ケアなどでベッドがふさがっているときには、分娩の受け入れとの兼ね合いというのは、うまくいっているのか。そこはそれを見越して、この体制でやっていらっしゃるということですか。

事務局 当然、分娩と重なるケースというのもあり得るのですが、分娩件数がかなり減っているという現在の状況がございますので、当然ベッドも空いていますので、看護スタッフの手も余裕が出るわけですね。そういった部分を使います。なおかつ市から受け入れを打診されるときに、当然現在分娩状況とい

いますか、そういったものも加味した上で受け入れる形をとっています。現実には、今件数が減っているということもありまして、比較的市との調整はスムーズにあって、受け入れはできていると思います。

委員 産後ケアで受け入れをしてもらいたいという御依頼があったときには、今のところそんなに混まずに、お断りすることなく受け入れができていて、これからも、産後ケアの部分がもう少しということになっても、今の体制で大丈夫なのでしょうか。

事務局 先ほど少し説明しましたが、当然、分娩が今の件数でなくても重なる日とかはございますので、そういった場合は、市と申請をなさっている方との調整の中で、日程調整というのは過去にもありましたし、今後もあり得ると思います。

会長 今のお話は、前にも結構心配していたことで、クオリティを維持するということが医療の安全の部分で重要で、そのためには最低限のマンパワーというのは譲れない線があるだろうというようなお話があったかと記憶しております。

他に何か御意見がございますか。

委員 市内に幾つか同業他社がある中で、ユーザーの方がどうしてティアラを選んだのかといったデータは何かございますか。

事務局 集計を広域にはやっていませんが、ティアラを利用していただいた方については、アンケート調査を実施し、任意ですが提出していただいております。その中で、一度利用したことがあって非常によかったということで、繰り返し当院を選択してくれたということがかなり多いです。もう一つ一番多いのは、地理的に便利だという、近くにある、これから通うのに便利、そういった部分で選ぶ方が一番多いのかなと思います。あと、お友達とか、今までティアラを利用してくれた方の推薦で選んでいただける初診の方もおります。

委員 口コミみたいのがあって来ているのですね。

事務局 口コミと食事。

委員 食事は評判がいいのですか。

事務局 悪いというのはほとんどないです。たまに何回かは、誤解に基づく悪い

書き込み、ネットに投稿があったりしたこともありました。

会 長 どういう投稿ですか。

事務局 誤解だと思いますが、分娩の際にドクターがずっとついていなかったという不満です。日本の方ではなかったのですが、その国ではずっとドクターが診るといっていますが、ティアラは基本的に助産師が診ています。当然ドクターも立ち会いますが、医学的に何らかの処置が必要でなければ、当然ずっとドクターがついているということはないのですが、その辺の誤解があって、不満だったという、そういう投稿がありました。

委 員 非常勤医師の勤務というのは、大体何年ぐらいの先生が多いのですか。

事務局 泊まりと外来を担当している慈恵の先生、女子医大の先生については、年齢的に40歳を超えたぐらいの。

委 員 何年ぐらい御勤務の方が多いのですか。

事務局 一番古い先生は10年。研修医の頃からです。一番新しい先生で1年。その他、女性の医師は4年ぐらいです。

委 員 週1回だと患者さんがなかなかつかないですよ。ここに。

事務局 そうですね。ただ、女性の医師を指定というか、選択してくる患者さんは多いですね。

委 員 なるほど。

事務局 ですから、女性のドクターを外来にあてるというのは、非常に有効かなというのはいかがでしょうか。

委 員 済生会の横浜市南部病院は、どこかの大学の医局関係なのですか。

事務局 南部病院につきましては、基本的に当直をしていただいております。当然、外来で穴を埋めたりするときには応援をいただくこともあります。遠藤先生という方が南部の部長先生で、その先生の協力でこの医局の方々を派遣していただいているという状況です。

委 員 大変ですね。水曜日でこれだけの人数がローテーションかけてくると。

事務局 穴を開けないようにということで、人数的に多くなってしまいうことはありますが、南部の先生方の協力を得たのもここ4、5年であり、そういう状況の中で、水曜日の当直は任せてくれというような、そのような意思で派遣をいただいております。

委員 いっそのこと、週3回ぐらい来てもらったらいいのではないですか。済生会さん。

事務局 時折機会があるたびにお願いはしているのですが、なかなか。

委員 こんなにたくさんいても経験が積みませんよね、南部病院で。皆さん若い先生ですよ。

事務局 はい、そうですね。

会長 さっきの産後ケアの話の続きですが、隣の市町に働きかけたら越権行為になるのですか。私の理解している範囲では、逗子市と葉山町は公的な入院設備を持つような分娩施設はないと理解しています。その二つの自治体で、例えば産後ケアが必要となるような患者さんが出たら受けます、そういうふうにはいかないのですか。

事務局 近隣の患者等も受け入れております。葉山町は鎌倉市と同じスタートで産後ケアをやっております。ですから、スタートからティアラでも受託をしています。ただ、現実にご利用する方が出たのは、今年度に入って1月、正月のときにお一人引き受けをいたしました。葉山町の事業として受けております。逗子市は、その後同じように事業を始めましたので、来年度は逗子市の事業も受託するというところで、逗子市とは話がついております。

会長 それは、よかったです。

事務局 横浜市は、横浜市医師会に全部委託をしているとのこと。まだ詳しい話を横浜市医師会に聞いていないので、横浜市については、今のところ話は進んでいません。

会長 三浦半島の横須賀市や三浦市の状況を承知していないが、もしお役に立てることがあれば大変喜ばしいことだと思います。

委員 広告宣伝費を90万8,000円、どんな広告をなさっているのですか。

事務局 京浜急行バスの車内広告。これは台数を増やすと金額が高くなるので、鎌倉営業所のバス10台に、運転席の後ろに電光で明かりがつく広告をやっております。それから、逗子市役所の戸籍の窓口、市民課の窓口のサイネージのところに。鎌倉市役所にも画面が切りかわっていくモニターの中に広告が掲載できますが、掲載したいのですが、鎌倉市は高いので。

委員 そのようなものがあるのですか。

事務局 鎌倉市は、大船方面に施設が多いので、伸びしろとしたら逗子のほうがあるのかなということで、逗子には3年前から掲載しております。やっと、今年になって少し逗子の件数は増えています。

委員 よかったですね。横須賀とかは全然だめなのですか。

事務局 横須賀は難しいところがあり、JR利用の市民の方だと鎌倉というのはさほど遠くないのですが、京浜急行の沿線のラインが強い。どうしても横浜方面というか、京急沿線の地域性といいますか。だから、その辺が難しいと思っています。横須賀の方でティアラを利用した方は、今まで数人しかいないと思います。

委員 広告宣伝のことに関連して。ファミリーサポートの運営を少しやっているのですが、紙媒体では、なかなか皆さんに見ていただくというのは。登録数が減っていて、若い子育て世代の方は、紙媒体よりもLINE等のネットでの情報のほうに馴染みがあります。私はもともと福祉なのですが、相談も今は電話ではなくて、LINEでやりとりをしたりするほうが楽みたいない世代の方も増えています。もしかして、そういう空き時間というのは変ですけども、せっかく医療職の方がいらっしゃるようなところの時間帯をそういう方たちに振り向けていくような、ちょっと難しいかもしれないのですが、そういう相談のやり方、広告のやり方というの、一つ方法としてはあるのかなと。それがどういうふうにつながっていくのかわかりませんが、紙の広告のように目に見える広告ももちろん大切だと思いますが、結構お金がかかるので、そういうところにも、先ほどの分婉が口コミとかで再度利用される方が多いという中で、すごく安心感とか、地域性みたいなものを大切にするとするならば、そういうつながりをずっと持っていくというのも一つ有効かなというふうに、今お話を聞いていて思いました。

会長 私もまさにそういうことを申し上げようと思っていました。少なくとも宣伝用のパンフレットを作るのであれば、そこにQRコードを1個埋め込んでおいて、LINEでつながるような仕組みは是非。それを印刷するだけで、特別お金がかからないのは、一つポイントだと思います。それから、インターネットで、例えば、鎌倉市お産とかいって検索したら何が出てくるのですか。なされたことないですか。もし、一番トップに矢内原医院と出てきたら、

何とかしてティアラが一番上に出るようにしないとイケない。今どきは、先ほどの委員がおっしゃられたように、若い方は紙媒体を見ない。なおかつ電話も嫌い。突然電話をしてくるなんかとんでもない。先に、メールなりで話をつけてから後で最終的に電話。必要ならしてこいみたいなそういう感覚です。是非、まずは鎌倉市で出産する人がもしネットで検索したら、ティアラが一番上にくるような仕組みというのはすごく大事です。新規に開業するお店、飲食店などは、最初の2カ月間ぐらいはバイトを雇って行列を人工的に作るといわれています。あそこの店は並んでいる。それでみんな行くようになって。そのぐらいの努力が必要な気がします。

委員 なかなか一番に行くのは難しいかもしれませんが、例えば、時間がある場合は、難しいかもしれませんがブログとかは。先生の御意見は。妊婦さんってすごく自分のことをとても神経質になり、ネットでどんどん情報を得たいという気持ちが強まる。何か自分の状態に合うようなものを探したりするときに、身近な先生のところのブログなり、情報がその症状に合ったようなところの話が載っているようなお医者さんのものがあると、とても安心したりとかするので、そういうところでの何か空き時間といったらそういう言い方はすごく失礼ですが、何か余裕があるときのやり方として、そういうのでつなげていくというのもありなのかなと。

委員 ティアラは、ホームページを持っていましたか。

事務局 はい、持っております。

会長 今、委員がおっしゃったような、高山先生のブログじゃないですけど、高山先生御自身がお書きになる必要はないですが、そういったような企画で、馴染みのある施設みたいなことを。あと、相談したいときに、同じことの繰り返しになりますが、LINEでもメールでも何でもいいのですが、そういうもので受ける。そのときに、もしスタッフの方が、多少時間のゆとりがあるのでしたら、順番に1時間に1回は何か来ているかどうかチェックして、投稿したものに対して、どれだけ素早いレスポンスが来るかが相手の評価みたいな感じ。相手というかその施設に対する評価みたいなことも今どきの若い方は持っているので、そういう手もありますよね。

委員 今、検索をしてみたのですが、順位としては何番目かには出てくるのです

けど。

会 長 トップじゃないですか。

委 員 多分、それぞれの方のスマートフォンの環境にもよると思うので、一概には言えないと思うのですが、他のところの病院と比較してみると、まずホームページがスマートフォン対応のページになってないので、パソコンで見る画面と同じ画面しか出てこない。だから、スマートフォンで操作をするには若干見づらいホームページになっています。お問い合わせというところで、例えば、電話番号をクリックしたら、発信画面が出てくるような設定にはなってないので、ひと手間。電話をかけようしたら、その電話番号を控えて、また電話するといった作業が必要になるので、ホームページだけの話でいうと、そういう工夫はあり得るかなと思います。ただホームページの改修にまたお金がかかったりするので、その辺の兼ね合いかなという感じはします。

会 長 今どきの若い方は、普通のパソコンは使い方がわからないとおっしゃる方が非常に多いと聞いております。企業でさえ驚いている。スマホ以外使ったことがないという感じらしいので、今、委員がおっしゃったように、是非ともそこは90万円の、今まで広告宣伝のところの具体的な内容というのは、あまり議論の対象にはなってこなかったですが、もう紙媒体の話の削ってでも、そっちへ力を入れられたほうがいいのではないかという気がします。

医師会 宣伝は、今まで広告宣伝費のほとんどは紙媒体です。特に市等で発行している子育ての冊子とか、市の生活ガイド、もう一つは市と医師会でやっている衛生時報への掲載、そういったもので他の全然関係ないところへ紙媒体でというのは、なかなか手が出せない。高いせいもあるが、出ていないところもあります。委員からいただいた御意見のとおり、ネットニュースというのはまさにそのとおりだと思っております。ホームページもリニューアルしてから、結構年数がたっている。そろそろ変えなきゃいけない時期には来ております。他にもフェイスブックもやっていますが、いかんせんスタッフの頭が、まだ今のネット社会の頭じゃないのかもしれないです。どうしても硬いですね。今の若い人のように。御指摘があったような検索しやすさとか、そういった部分については、まだうまく会得できてないところもありま

して、この辺は御意見を踏まえてスタッフのほうにも話をしておきたいと思っております。

会 長 今、1月なので来年度4月からの予算を具体的にどう実行しようかという計画を立てるといえるときに、今の視点で間に合うのであれば、先ほど来御意見をいただいているように、少し紙媒体から、少しじゃなくて大幅にネット媒体のほうに軸足を移していただきたい。職員の方の中にも探せば絶対一人や二人は、ある程度強い方がいらっしゃると思うのですが、誰もいられないことはあまりないと思うのですが。

委 員 OBというか、ティアラで出産された方のグループがあるというふうに伺っていますので、そこでこういうことを話題にさせていただいて、こういうふうになっていると使いやすかったとか、逆にこういうところで使いにくかったというところをお話ししてもらったらどうか。鎌倉には、ちょっと保育園とかに行くと、すぐネットでデザインやっていますみたいな方とかもいらっしゃると思うので、そこは専門家なので、そこを使うわけではないけれども、実際にお使いになった方々が身近にいらっしゃるということで、職員の方ももちろんそうだと思うのですが、そういうグループの中で、協力してもらおうとか、ティアラを盛り上げるためにこれからも分娩を続けるという目的で協力していただくというのも一つ方法かなと思いました。

会 長 診療の予約とかをネットからとれる。そういうのも幾らでもあります。そういう医療機関。先ほど申し上げましたように1月なので、少しこれから職員の方というか、皆さんで相談をしていただいて、一昔前ですと、ホームページをつくるのにえらい金がかかるとか、そういう時代だったと思うのですが、私の理解するところでは、仲間内とかどなたかお知り合いの方にある程度知識のある方がいらっしゃれば、ホームページをつくるソフトというのがあって、それは、そんなに高額なものではないですし、いろいろとやりようがあると思います。まずはどんなことがどういうふうに行えるかというのを協議していただいて、もし可能であれば半年後の夏の協議会のときに、少しその辺の御報告をいただければという気がしております。

委 員 鎌倉市役所で鎌倉市出身者の御活躍の方のリストとかをつくっておられますよね。ふるさと納税の案内みたいなのは送ってないのですか。

鎌倉市 クリエーターみたいな感じとか。

委員 鎌倉出身で高校から大学行ってLINE等で働いている連中がいると思うのですが。ふるさとが絶対好きなので、そういう方をお願いして支援をもらう。故郷だったら、ほっといてもやる人いますよね。LINEでもヤフーでもGoogleでも。結構行っていると思うのですけどね。芋づる式に出身者でふるさと納税の案内をかければひよっとしたらくれるかもしれませんよ。以前、福島の相馬市で、看護師が不足しているという看護学校の教員で、どこに頼んでもだめだったのですが、地元の相馬高校の先生をお願いしたら、相馬高校から東北大学卒業して、虎ノ門病院でやっている看護師さんで、親が病気になったから帰りたいと思っていて、ちょうどありがたいと。そんな高学歴の人が帰ってくるということは絶対ないので相馬市はすぐに受けた。地元のネットワークを持っていていいと思いました。ティアラでお産を増やすには、藤沢市と横浜市をとりに行くしかないですよ。市内で取り合いゲームをしても皆さんもやりにくいでしょうから。藤沢と横浜がどんな方々が行っているかのデータを分析して、その方々を入れていくのがかなり現実的ですよね。あと県外というのも、鎌倉で働いている人で、お母さんが御実家に行っているということが120件もありますよね。そういうところのデータを持って行って、送りつけると意外に効くかなと思うのですけどね。ふるさと納税とパックで送ったら。

委員 いいですね。

委員 いっぱい送ってきますよ、そういうの。鎌倉市はお金持ちなので、そんなことまでする必要ないのかもしれないのですが。そんな気がいたしました。

会長 いろいろな意見をいただいておりますが、次のワンステップに向けて工夫のしがいがあるのではないかという気がします。分娩数がどんどん減っている御時世ですから、とにかくお隣のものをもらってくるぐらいの気持ちじゃないとこれはうまくいかないのでは、JRの広告じゃないですけど、そうだと京都行こうじゃなくて、そうだと鎌倉でお産しようぐらいのキャンペーンでもいいわけなので。

委員 その日によって少し違って来るから手厚いとはなかなか言えないのだと思うのですけど、ネウボラの制度とか、何か里帰り出産をされる方というの

は、お母さんとかの安心感があると、だからその安心感が実は鎌倉で大丈夫ですよ、こういう安心感を持ってそこに頼らなくても大丈夫ですという体制があれば、里帰りをあえてしないで、今住んでいらっしゃるところで産みたいと思われる方もいらっしゃるかもしれないので、その安心感をどういうふうに出せるか。産後ケアもやっているから、それもセットですとか、婦人健診、それから先もありますというところも。実は、今日持ってきた資料で、今、子ども・子育てきらきらプランについてのパブリックコメントをしているかと思いますが、その中で結構市民健康課のほうの事業もいっぱいプランの中に入っていて、いろいろな事業があるので、そこを何か上手に組み合わせて、パックにするというわけではないですが、鎌倉は、こんなに全部パックで安心してできます。というところを、時系列で見られるように、ここで産めばこういうふうになるし、産後ケアも受けられるし、安心した地域の助産師さんがその後ずっと見てくれますよというようなことがあれば、じゃあ、県外で里帰りをしなくても、ここでずっとその後も同じ人がケアしてくれて、同じところで安心だわというような安心感に訴えかけるというのもすごくいいかなというふうに思います。だから、一つ一つ別れたところではなくて、このせっかくプランでいろいろ本当にたくさんの制度がある中で、それをパックにしてお見せするというのも、やり方としてはとてもいいのではないかなというふうに思っています。

あともう一つは、このきらきらプランの中で、いろいろ子育て世代の包括支援センターができますよとかあるのですが、一つ気になったことがあります。きらきらプランの中で、このプランはこどもみらい部のほうが中心になっておつくりになっていて、鎌倉きらきら白書というのを毎年、実施状況をまとめて作成されるということで、それは、子ども・子育て会議というところで計上されるというふうには書いてありますが、子ども・子育て会議の委員の方々の中に、あまり医療職の方とか、保健関係の方がいらっしゃらなくて、恐らくそれはこどもみらい部が中心でおつくりになっていらっしゃるのだと思うのですが、内容を見るとかなり保健分野のことも半分ぐらいは、市民健康課のほうの事業なのではないかと思うようなところもあるので、パブリックコメントで出せばいいのかなと思ったのですが、そこがせっかく医療、教

育のところが小学校とかのところも入っているので、何かもう少し保健とか医療の分野の方が委員にいらっしゃるといいなと個人的には思ったので、この場をお借りして言わせていただけたらなと思いました。

会長 市役所の中にもいろいろ所管があるとは思いますが、可能であれば、今委員の言われていることは本当に素晴らしい御意見だと思います。安心感がその一つの時点だけの安心感じゃなくて、妊娠中、出産、育児のスタート、というような感じで赤ちゃんが生まれてから最初の2カ月ぐらいのところまで、そこが一番母親にストレスのかかる時期になるので、その辺までをまとめて全部サポートしますよといった絵が描けると、すばらしくいい宣伝文句ができるのではないかと思います。

今日は、いろいろと良い御意見をいただきましたが、受けるほうとしては大変な話が多いかと思いますが、ぜひ御検討いただきたいと思います。

それでは、今日の協議の内容としては大体以上でございますが、他に何かございますか。よろしいですか。

それでは、事務局からお願いいたします。

事務局 次回の開催時期でございますが、例年7月下旬ごろを予定しておりますので、そのあたりで日程を調整させていただきまして、改めて御案内を申し上げます。

それでは、最後に、鎌倉市医師会会長の山口より一言御挨拶をさせていただきます。

山口会長 本日は、雨の中、委員の皆様にはお忙しいところお集まりいただき、誠にありがとうございます。私は、昨年7月から医師会の会長をやっておりますが、医師会の仕事は、ティアラができる設立のほんの少し前からやっております。設立の当時のいきさつ、その後の経過とかは、担当ではございませんでしたが、つぶさに見させていただいておりました。当初は、皆さんご存じのように、鎌倉市には産科の病床が不足していて、それを何とかしなければいけないと、当時の石渡市長の強い要請に応じまして、我々が役を担うような形になって始まりました。設立3年目ぐらいのときは、310分ほどになりましてよかったのですが、先ほど母子手帳の交付状況を見ましたところ、ピークの頃が1,300冊ぐらい公布されて、今は1,000冊ぐらいです。

23～24%減っているというような状況になっています。また、近隣には新しいアメニティのいい個人の診療所ができたり、湘南鎌倉総合病院が移転して新しくなったり、先ほどお話が出ました、藤沢のほうには、やはり若い先生が始められた診療所があります。逗子のほうも若い先生が始めたというか、継承でやっていたところをリニューアルされまして、大分大きくやり始めたというようなことがございます。そういったことで残念ながら、このところティアラかまぐらの実績が少しずつ落ちているというような状況ではあります。ですが、今まで鎌倉市に対して社会的な役割を果たしてきたことは間違いのないことでありまして、これも先生方の御協力があったことだと感謝申し上げます。これからも、市役所と運営に関しての協議をより深めていきながら、来年度以降どういうふうにしていくか考えて行動していきたいと思いますので、先生方には、是非とも御理解と御協力をいただければと思っておりますので、よろしく願いいたします。

会 長 それでは、今日の協議会はこれで終わりとさせていただきます。御協力ありがとうございました。